

部門紹介

当院におけるがんセンターの活動2020

岡山赤十字病院 がんセンター

藤 井 総一郎

(令和2年8月26日受稿)

要 旨

がんセンターでは、外来化学療法、放射線治療、緩和ケアチーム診療の他、相談支援、がん登録の業務を実施している。本文では各部署の活動と実績を報告する。化学療法センターでは化学療法により在宅診療を継続する。放射線治療では限局期がんは根治をめざし、進行期がんは症状緩和を行う。緩和ケアチームはがん症状の緩和を目的として活動する。がん相談支援センターではがん患者の療養についての相談に対応する。歯科チームは化学療法や放射線治療の前後で口腔ケアを実施する。がん看護師チームは告知後の患者へカウンセリングを担当し、薬剤部スタッフは化学療法の説明とミキシングを実施する。がん登録は当院で治療したがん症例を登録し、岡山県と厚生労働省へ報告する。がんセンターは、今後とも各診療科と連携して質の高いがん医療と患者支援を提供できるよう努めていく。

Key words : cancer center, chemotherapy center, radiation therapy, palliative care team, cancer consultation support center

緒 言

当院は、地域がん診療拠点病院に指定されている。がんに対する手術、化学療法、放射線治療の診療実績と緩和ケアチームの活動は基本要件で、診療以外には、相談支援、がん登録、がんに関する情報提供、2次医療圏の医療機関との連携も重要な要件である。がんセンターでは、これらの要件に対応して活動をしている。今回、当院がんセンターの各部署、各チームの活動状況と2019年度の診療実績を併せて報告する。

化学療法センター

南館の化学療法センターでは抗がん剤治療・化学療法にて病勢のコントロールを行い通院治療の継続をめざす。治療人数は1日平均18名である。2019年度ののべ治療件数は4,411件で、乳がん969件、肺がん928件、膵がん465件、大腸がん432件、血液腫瘍380件、胃がん334件、婦人科がん216件、肝がん・胆道がん200件、泌尿器がん134件、頭頸部がん97件であった(図1)。

スタッフとして医師1名と看護師は専従看護師1名と他3名が対応している。治療ベッド数は15床で、リクライニングチェア12床とベッド3床である。センターには調剤用のミキシングルームが併設され、薬剤師2名が専任しミキシングを行っている。

化学療法では安全性の確保が重要である。検査結果の確認、投与ルートの確保、感染の有無がスタッフにより確認される。治療レジメンの登録時には、有効性、有害事象、予防投与など治療の内容がスタッフにより確認される。

放射線治療室

南館の放射線治療室では放射線治療を実施している。限局期のがんでは根治をめざし、進行期がんでは疼痛コントロールなど症状緩和を行う。治療人数は1日平均19名である。2019年度ののべ治療件数は4,201件で、外来治療2,552件、入院治療1,649件であった。患者数は235名で、乳がん63例、肺がん51例、悪性リンパ腫35例、頭頸部がん25例、胃がん・大腸がん17例、泌尿器がん15例、肝がん・

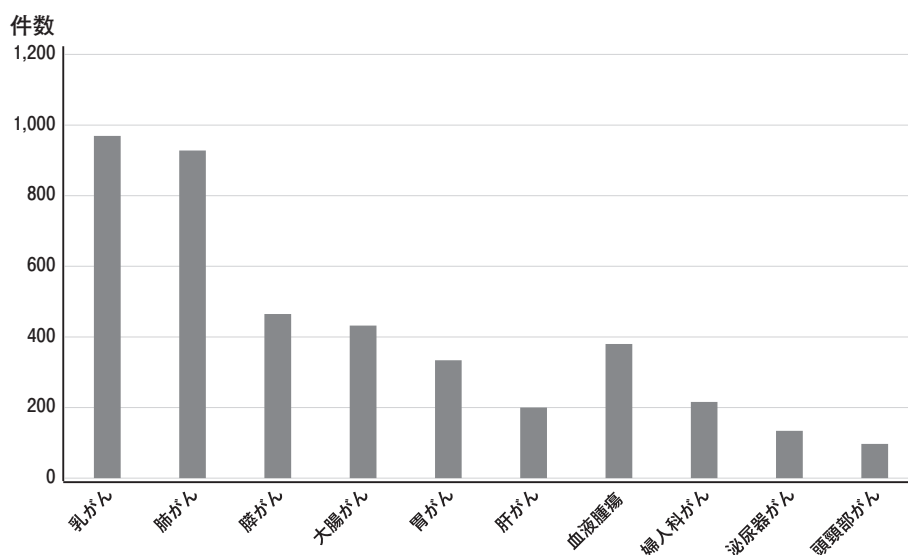


図1 外来化学療法のべ件数, 2019年度

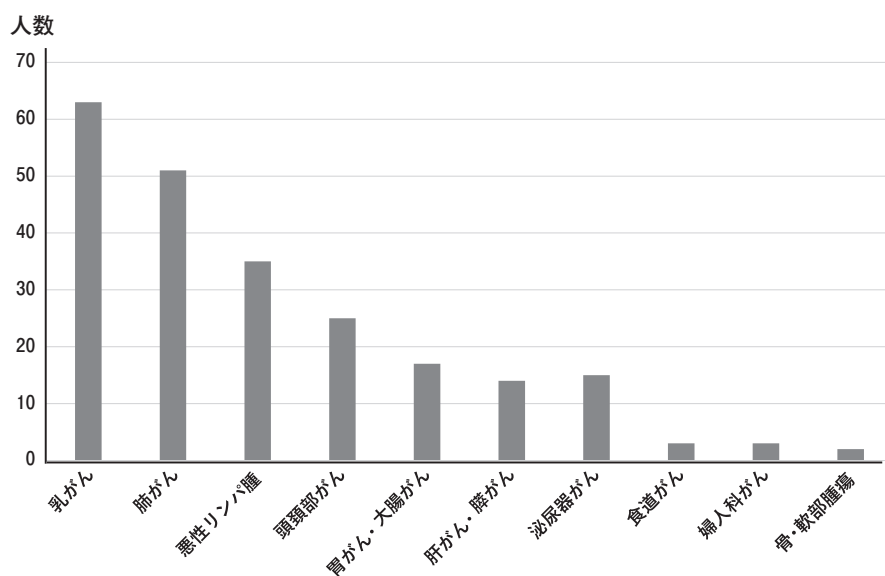


図2 放射線治療の患者数, 2019年度

膀胱がん14例であった(図2)。

スタッフは医師2名と診療放射線技師5名が専従し看護師2名が専任している。

放射線治療では通常治療のほか、画像誘導放射線治療, Image-Guided Radiation Therapy : IGRTが行われる。また、強度変調放射線治療, Intensity Modulated Radiation Therapy, IMRTでは病変に局限した治療が可能で周囲組織への損傷が少ない。IMRTは、肺がん、頭頸部がん、転移性脳腫瘍、前立腺がんに対して有効である。入院患者の場合、看護スタッフは病棟スタッフと連携して治療の有害事象に対応する。

緩和ケアチームの活動

がん性疼痛に対する症状緩和を目的として、緩和ケア専門医師2名、精神神経科医師1名、専任看護師1名を中心とした緩和ケアチームが活動している。2019年度の依頼件数は新規が221件、継続が1,008件であった。緩和ケアチームは、緩和ケア外来と緩和ケア病棟にて活動し、一般病棟のがん患者へも対応している。がん性疼痛の治療をしている患者をカルテ回診し、疼痛コントロールについて提案や助言を行う。また、ソーシャルワーカーと連携して患者の在宅診療への移行や地元病院への転院の支援も行う。

緩和ケアチームは緩和ケア研修会を開催し、院内の医師に対して講習を行う。

がん相談支援センター

がん相談支援センターでは、がん専門相談員（看護師）とがん性疼痛看護認定看護師ががん患者の療養についての相談に対応している。2019年度の相談件数は計844件で、面談は785件、電話相談は59件であった。相談員は当院を受診した外来患者へ対応するが、各科カンファレンスへも参加し入院患者の支援も行う。

支援センターでは月2回がんサロンを開催し、患者同士の情報交換、意見交換の場を提供している。1回の参加人数は10名程度で、2019年度参加のべ人数は109名であった。また、本館6階のがん専門図書室利用の窓口となっている。2019年度利用件数は128件であった。

歯科・口腔ケアチーム

歯科・口腔ケアチームは、各病棟の口腔ケア担当看護師と連携して手術前の口腔ケアの他、化学療法や放射線治療の前後で口腔ケアやブラッシング指導を行う。

スタッフは歯科医師2名と歯科衛生士2名が担当している。2019年度の口腔ケアの指導件数は273件であった。

がん専門看護師チーム

がん専門看護師チームは、がん告知と治療について説明を受けた後の患者へカウンセリングを行っている。カウンセリング業務はがん専門看護師7名が対応している。2019年度の対応件数は計228件で、診療科別では消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科の件数が多かった。

薬剤部スタッフとの連携

薬剤部スタッフは、がん治療において多くの業務を担当している。業務は、化学療法の説明、服薬指導、抗がん剤のミキシングである。入院と外来患者を対象に抗がん剤治療について服薬指導を行う。2019年度の件数は149件であった。

また、入院での化学療法のミキシングを行う。2019年度の入院でのべ治療件数は2,573件で、病棟別では、4南病棟・血液腫瘍1,159件、5南病棟・肺がん586件、7南病棟・消化器がん340件、

6南病棟・泌尿器がんと頭頸部がん340件、7東病棟・乳がん83件、4西病棟・婦人科がん49件であった。

有害事象に対する院内ガイドラインの作成

薬剤師2名と著者からなる支持療法チームでは、化学療法による有害事象に対して院内ガイドラインを作成している。肝臓内科小橋医師と共同して、化学療法後のB型肝炎再活性化の予防に関するガイドラインを作成し運用している。その他、化学療法後の口内炎対応ガイド、手足症候群対応ガイド、免疫チェックポイントの副作用対応ガイド、infusion reaction 対応ガイドを作成し、有害事象に対する医師の対応について院内の均てん化を進めている。

がんセンター会議

がんセンター会議は、がん腫ごとの担当責任医師、看護スタッフ、薬剤師スタッフ、がん専門相談員からなり年に4回開催される。治療件数の報告、各チームの活動状況とがん診療に関する案件の進捗が報告される。また、その場では診療に関する医師や看護師からの要望について担当部署の間で直接意見交換がされる。

がんセンターボードと市民公開講座の開催

月1回がんセンターボードを開催している。がんセンターボードの担当は各科持ち回りで、参加人数は30名から50名である。提示される事例は、治療ガイドラインでは対応できない事例、標準治療が終了した事例、治療の継続を希望されない事例、希少がんなど多彩で、がん治療の複雑さと困難さを知る。参加者は主治医、放射線科医、病理医、放射線治療医、緩和ケア医、病棟看護師、緩和ケア看護師、化学療法センター看護師、がん専門相談員、薬剤師である。病状や予想される予後、患者が希望する治療、背景となる情報が共有され、その後の治療方針が検討される。

がんセンターでは、年2回市民公開講座を開催している。2019年は6月と10月に開催し、胃がんと肺がん、腎がんをテーマとした。参加人数はそれぞれ89名、40名であった。市内では病院周辺からの参加が多く、玉野市、瀬戸内市からの参加もある。岡山市医師会や新聞社、病院周囲の町内会に対して広報を行う。

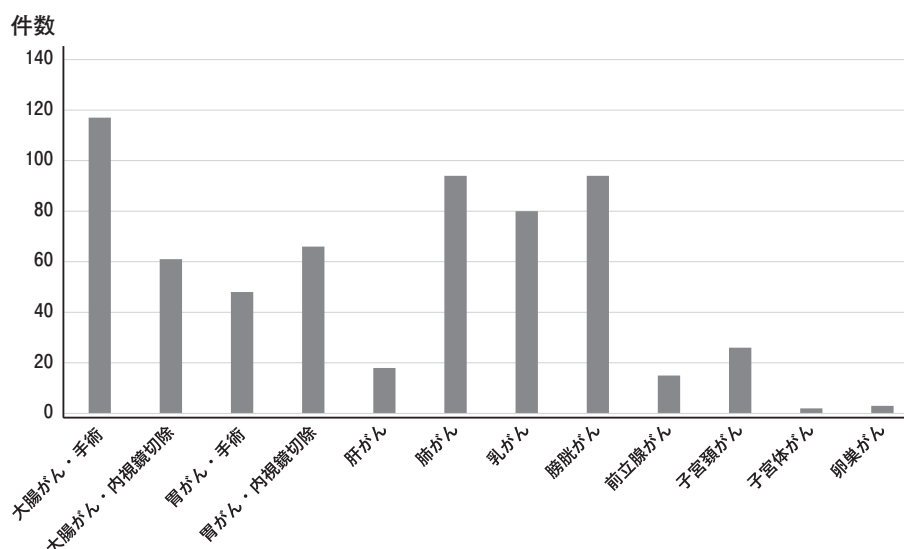


図3 がんの手術件数，2019年度

がん登録について

医療情報管理課の専任がん登録実務者を中心にがん登録を行い，厚生労働省（国立がん研究センター）と岡山県がん登録室へ報告する。当院が報告した2019年度の手術件数は，大腸がん・手術117件，大腸がん・内視鏡切除61件，胃がん・手術48件，胃がん・内視鏡切除66件，肝がん18件，肺がん94件，乳がん80件，膀胱がん94件，前立腺がん15件，子宮頸がん26件であった（図3）。

がんゲノム医療への取り組み

今年度は，がんゲノム医療連携病院の申請を予定している。がんゲノム医療については，がん拠点病院を基本とした登録システムが構築される途上にある。がんゲノム医療は未だ治療と直結していないが，今後はゲノムデータを元に適切な抗がん剤が選択され，がん治療のガイドラインや薬剤の適応が変わることが予想される。当院でもがんゲノム医療に対応ができる様，患者情報と遺伝子検体の保管について整備中である。

考 察

現在，各診療科において手術，化学療法，放射線治療が実施されている。がん治療には一定の侵襲を伴うため，安全に治療を実施することが重要である。がんセンターの各チームは，医師が安全に治療を完遂できるようサポートしたいと考える。また，緩和治療に関しても患者からの要望に

対応できるよう努力したい。

免疫チェックポイント阻害薬や多くの分子標的薬剤など新規薬剤に対する対応やがんゲノム医療の導入など，がん診療は日々進歩している。今後がんセンターでも新たな取り組みが必要となることが予想される。

結 語

がん診療においては，病棟や外来における各科診療チームとがんセンターのサポートチームが連携して，患者に対する細やかな対応をすることが重要である。がんセンターではがん診療とサポート体制をさらに充実して，患者のトータルケアを目指したい。

本論文内容に関連する著者の利益相反：なし

謝 辞

がんセンターの業務に共に従事している各部署，各チームの職員へ深謝致します。

化学療法センター：医師・別所昭宏，看護師・岡本みどり，薬剤師・諏訪耕三，松本和也

放射線治療室：医師・姫井健吾，林英博，放射線技師・横山誠一，木村洋司，小林加代子，平松章平，池田正樹，看護師・池田知子，木下亜結

緩和ケアチーム：医師・喜多嶋拓土，深松伸明，中島誠，看護師・長谷川亜樹

がん相談支援センター：がん専門相談員・立花裕子，看護師・西村美有紀

歯科・口腔ケアチーム：歯科医師・小林幸生，関愛子，歯科衛生士・松岡幸恵，多田小津姫
がん専門看護師チーム：看護師・長谷川彩華，武田芽衣，佐々木猛，遠藤昌子

支持療法チーム：薬剤師・小池彩子，花房伸幸
医療情報管理課：小田美恵，木村則子，三宅由利子，
筈尾多美，田中裕子（専任がん登録実務者）

<Abstract>

The report for activities of Japanese Red Cross Okayama Hospital Cancer Center in 2020

Soichiro Fujii

Cancer Center, Japanese Red Cross Okayama Hospital

The cancer center provides not only treatments including outpatient chemotherapy, radiation therapy, and treatment by the palliative care team, but also consultation support and cancer registry. This document reports activities and performances of each department. The chemotherapy center will continue home care with chemotherapy. Radiation therapy provides treatments targeting complete cure for localized cancers; and conducts alleviation of symptoms for advanced-stage cancers. The palliative care team provides activities targeting alleviation of symptoms of cancer. The cancer consultation support center handles consultations for various issues. The

dental team is in charge of oral care before and after chemotherapy or radiation therapy. The cancer nursing team provides counseling for patients after cancer notification. The pharmaceutical department staff explains the description of chemotherapy, mixes and prepares of anticancer drugs. Cancer registrants report the cases of cancer that were found in the hospital to Okayama prefecture and Ministry of Health, Labor and Welfare. Having cooperation with other clinical departments, the cancer center continues to conduct its activities for providing first-rate cancer care and patients support.